



6570
^5



南無阿弥陀仏の御名を唱へて
付家又及命に乃好しく
おぼくは清浄なる心
を以て衆生を救ふ
心願を成すべし

江ノ浦 井原西翁



伊勢 志田守茂

千句一兆 春やからし 春 井原西翁

山崎 一夜庵宗鑑

満ちてゆく春の光景

馬丸 大納言光廣云

寛文十二試免 元日 忍也 春の光景

京道遊軒松永貞徳

可久た女少れま草葉の
筆

越前本勝寺目能

ま川とこま川をわたり
流

京道言頼寺安永庵

山嵐吹入る心も
糸傳

大坂洋田休甫

花の雪道草葉那ま
嵐傳

京野口松翁

藤の葉も
南

同松江維舟

下戸の川や胡柳の
筆

江戸 母藤徳元

おらやーら春初花主梅徳元

大坂 天海菴昌坊

和也才や心月結新法下
有坊

京 雑冠井令徳

尺地持持さびらりり丹中身蔵令徳

京 安原正章

名のれあろーも津も道ー部公正章

江戸 高崎玄礼

えさろ月やこ下此ろろー免言礼

京 山本西武

新衣さあやなんもじりんろろ
西武

伊弉 山田女

天乃くはるのりさめりさのほ

光るま

京 壬生昌玄

秋乃蟬に露月はのりさめりさ

平野 末言道節

くはるのりさめりさのほ

京 織篁斎春

に

秋乃蟬に露月はのりさめりさ

京 江崎幸和

くはるのりさめりさのほ

伏見 西岸寺

秋風十月宮殿のりさめりさ

京 杉捨徳軒

はきちやにわすれぬわいの緒李略

揚羽山田加藤船女

枕をくねは初音也 町子 船家

江戸 石田赤傳

あひの程いふ川原 多し川 未得

堺 半井慶友

五

ふわふわの所はいふらぎのま 慶友

京 高瀬佐心子

此の夜も

あはれ 後 梅風

和歌 松山池田三式

若くは乃きろきろふせりふて三式

泉為岸和田忠教元德

江のほとりてびら流るる水に
舟を乗せしむる人ぞ
なほ昔の如く

大坂 小浜民部殿

哥のいね 柳やわらもさ
なす 花

紀品 若山宗明

水は花ありて流るる水
舟を乗せしむる人ぞ
なほ昔の如く

宗明

京 馬淵宗明

六

流るる水に舟を乗せしむる人ぞ
なほ昔の如く

宗明

天王寺 夕陽庵 春

昔のいね 柳やわらもさ
なす 花

京 中井正直

池に舟を乗せしむる人ぞ
なほ昔の如く

京 荻野安静

寂しき懐の懐 持ちしるゝ雷亦響

堺 柏井一正

見へや啼ありきし 暮時さあつし一正

八幡山 岩倉坊

系此のやまのいとししと 信海

堺 正法寺 俊安

七

影の身しあふるに 風は角子小原

丹波 栢原女 ステ

深川とみせありし じんきりつに河

ステ

岩城 内藤左京殿

かゝるにねがふと 御神代の風琴

梅と桜

大坂松山邸也

中線也

馬也

廣瀨 中川 松也

一、二、三、四月、五月、六月、七月、八月、九月、十月、十一月、十二月

松也

土佐 國瀨寺 曾産

人の世は年を数へむる事皆虚

土佐 島永 戀石

花小もむらさきもあはれはなほ

伊勢 山田 光貞

残りの宵も蕨やあはれ入る 光貞

京 福井 知徳

心風はしるはまの晴也 知徳

紀州 若山定時

出とあり凡乃多はるる花と礼と

大坂 水野栄甫

花は夢をまよひて云々 鶴子山 栄甫

江戸 昌雲軒春清

花は 夢をまよひて云々 昌雲

津国 勝尾寺 菟空

花は 夢をまよひて云々 菟空

瀬波 岩手定也

雪の白ひれ花の葉白哉 定也

中後 大村因遠殿

餅月の光ハ氷砂糖ハ 因

大坂 天海菴山休安

今志鳥乃翅や經の神靈成休安

和加前清淨院

鼻板のゆきれ月の白嵐亦夢

京 伊藤則常

取巾標も一れな為や清かき、 則常

伊藤 山田屋友

寸糸月束心く四むせき 友

大坂 川崎宗立

秋鹿村の節乃言物お美志 宗立

京 内田平吉

香や初よりしあそむる 雪乃梅 平吉

越前林御門跡

樂なりれや代母たふあは
と 鶴のさ 林

京 青地可頼

所乃や宮浦のありふ町らる可頼

泉乃堺感之

御神樂をよらひけりさき 感之

京 舟類彦政信

舟乃をよきやゆくの善草 政信

江戸 尾園善吉

ねもへふはしむらひに なるかひも

傳 墨本胤及

地は花をよそそや菊の霜掩い
胤及

京 渡邊氏重

雪のふりしむに煙のなる世なり

貞重

伊勢 山田春晴

一愛を物もとうへん郭么 春晴

大坂 半井立下

夜通一やふち百里の楊柳 一六

京 松坂和年

川乃歌う一葉ふりし月桂名聲

大坂 中峯上甫

ちん又あゝく之洞なるや 甫
勢云

京 隼士親祐軒

雲水し菊さうりし糸の先 孝辰

大坂 女采春

富士とていふ山ありては
まはれぬか 草書

京 山宮元隣

彌のりり針山乃ありは色
元隣

播摩 池田是誰

松よきと種麻乃はありては
松乃是誰 宮

十三

堺 阿部林庵

紅葉や小い南いふかみ林殿

伏見 高瀬道耳

鳥なみ身乃いふありては
道耳

京 大村可全

了る色いりの事なきも。まよひ
蟬 の春

大坂 住持 意類

母にありて
部と意類

住持 竹内一葉軒

出のや尻の
子ら母 二指

江戸 塘満直

汗のたふさ
清の那満直

加賀 大橋可理

月一早や子葉は
清の那 可理

京 服部 齋牧子

茂のこゝろ
神を安 定信

和州 新集山三助殿

塩光方
志ほらや
わうの道

与勘守和崎来折宗臣

早今まきとくぬは貝えたり
宗臣

京 金月重保

むしりしきくきくしり種のはれ
宗臣

宗臣

江戸 小野信世

馬天乃白りや原と花七世
信世

堀 玉手貞直

五

百根り次木小美や流様
五

大坂 井恩義之

毛乃もりゆきとあり
胸の雲 貞直

江戸 水野寺尾清門殿

大文字のまきとくぬは貝えたり
宗臣

宗臣

京野口貨方

雨多し名花散らるる月夜

住持甚木田使

鬼城城元とて夜はさうの常楽の人

尾張 後遇友忌

侍こころ胸はなごころをさるる

河内 清水春霄

十六

公成平侍のうたははるる須き

大坂 了妻寺夕翁

ふたふたの海や静かにやう梅は紅いさ
夕翁

京 井上友貞

五月雨の世界とらるる友貞

京 端定重

さうやまの老ふかゝらぬ夜より定重

大坂 伴将村宗善

まふ板や枯る新中も揚網 宗善

河内 三宅女永覚

海の小く 見 越れ 志の 元 永覚

京 松屋宗隆

十七

と人夢を足もらわらん松屋 宗隆

江戸 山村兼光

と夢のふりて人かまゝぬらと 兼光

伴将村宗善

流るる水も流るる人の夢も 宗善

大坂 茨谷安明

秋風よきやうきとくは柳が萌

江戸 石田笑言

ふりよき風よきとくは笑言

依阿 池田室休

五月魚也、おのち、は沖の石屋

尾張 一原友枝

大

鳥のけしやうは柳の萌

京 谷口重以

四万石乃、おのち、は柳の萌

依阿 堀田不忠

おのち、は柳の萌

大坂川崎方女

岩や海風おきまりてさくははし方女

堺 若永重

八月のあしをいそぐお梅は永重

大坂斤山秋月

お梅は秋月お梅は秋月お梅は秋月

伊梅松坂春陽軒

井

風はあつてもお梅はあつてもお梅はあつても

堺 前坊慈心

梅は初も色は古梅は玉文の意

京松世定用事

吾は心忍びて云升れ梅火 好女

大坂 尾坂好道

雪小とく袖もくぬき
成之

堺 池田宗介

白雨や所よもわて
かひも履
成之

大坂 井口安貞

父孝り一つ糸こ子こ也
若菜子
賞

江戸 初 在馬友仙

二

江成門はへな名な所しれり木も白は

折川 遠水 藤田友闲

歌子酒子 詠子
解こ也
毛古月夜 歌子

京 寂光寺 泰園

少す多たののかか魚うのの花はや
跡あと道みち乃の歌
泰園

京中嶋貞宜

君う河うるさうさうのちうせうのうと

貞宜

大坂宇野河内

東にありて中北のうた

沱田津田道念

芳山は津田道念のうた
虞勝

東斤相良保

三

花はいん

虎

丹

良保

月うさう

沱田 佐伯実娘

水油はあうた柳娘友舟

京 高梨野也

心相がうた
高梨

京古筆一村

寫花乃錦屏山てふてふ

大坂川崎静寺

五月多は 小のれ

いよひの 川をれ

静寺

堺川進長治

たのれ園形れとて細代成治

山崎 釈林梵益

廿三

事初や今年おとあて大坂成梵益

京 高川三由

事々風うり水邊路の隣茶の節

傳善通寺 以香

之日

之物いあ〜〜〜筆始の圓

林宗野秋蒲鈿

圓金島月北靴
薄刺

場 南元順

花子鐘譚ハハモレ
夕方由

備那 一時軒

侍古一郭一
也杉字 惟伊

大坂 天海本定夏

女々々留士
改海乃松の雪
夏人

伊藤泰一景

不相思
乞花の口
以息の
一景

伊藤美田氏球

此風如
夕小
昔行
初武松

大坂 谷宗也

反古屋まや ちんすん の 橋網忠由

徳小 西村良菴

月に光 あかり の 燈火 あかり や 石河原 いそがわ

良菴

肥後 能本一直

肥後 あま の あま の あま の あま の 一直

江戸 名田赤松

江戸 あま の あま の あま の あま の 赤松

大坂 舟藤玄玄

大坂 あま の あま の あま の あま の 舟藤 あま

京 小野宗恵

京 あま の あま の あま の あま の 小野 あま 宗恵 あま

京 山并来安

心あてにわらうしむりも菊の道 其也

江戸 宮色吟松

草生れ宿乃たを(著) 著家吟松

京 飯田成次

ささげの 淋し せきまられ 花

大坂 西村可秋

廿六

写方山 花を 行 花に 一の 花

場 水野新廣

珍鶴やいし瀬乃波小也礼の也

楓原

大坂 之 新 以 仙

かきり物や 誰 游乃 花

伊 坊 踊 益 舞

伏見金松友世

朽柯や肩の骨
ふるふる橋
友世

伊丹住池田宗直

いままら
ふり
と素のり金乃日橋出たれり宗直

大坂 林定親

圓高子
おのれ
おのれ
おのれ
おのれ

伏見 金松院

二十七

枯り泣きの心
おのれ
おのれ
おのれ
おのれ

大坂 藤田幸彦

鬼もさるく
かきく
おのれ
おのれ
おのれ

和易 鈴山林宗甫

おのれ
おのれ
おのれ
おのれ
おのれ
おのれ

大坂 西田久任

天人の雲路とわらう酒を請
ぐ狂

戸 森 好 甫

うき鳥乃けやさまうら

翠々心凡

親信

和弱 今井正威

みづ鏡に教ぬ心も世感
平威

石波 棟梨一重

二天

福初め酒宴中持事の今日一書

紀形 若山女高田

経母と新乃風流う家柄

海峽

大坂 前川半造

入月や杉よの
物枕簾

由栗

備中 吉原信元

今一夜あつたれ破お積 信元

江戸 延沢破扇子

そのふれ毎に流流とせうれ 破扇子

大坂 吉田立致

と有るも如神代にせうれ 破扇子

大坂 高木川草子

二十九

それ花もはらへてはらへ

あはれ 松意

伊勢 山田二休

草双紙のあけ漢下花町 二休

江戸 高井立志

さうぞうもやうと井よりの歌の連 立志

南都 素門宗珩

かん端乃ほくふたなるもほき酒宗珩

大坂 川端言孝

下はとつふきふか吟詠 言孝

肥前 國時明之

楊梅小首三のゆれ行く東 明之

大坂 高石石秋

三

新かき集花 たかや石秋
たかや石秋

紀伊藤代石倉入

あめりあのかきやくのむし 入

江戸 山狩宗利

夜絶つほんかか被卓宗利

南都 谷松立軒

斤年一龍うらむむ町鳥 雲

高野山 蓮華寺 吟市

ふやと結真言門 浪情の松吟市

江户 竹井炭利

涼一風子 如まの母さう 炭利

京朝江 一風子

風吟は散り白波 乃京 権寛

大坂 中堀神和軒

海鳥の白鳥 躍る 乃京 文書

和歌 多岐岩西院

流子よ海さう 乃京 乃京 紀子

大坂 落山玄端

白く吹く月さし松乃雪 母

侯将 山田竹大

おのころをわきまに 秋

大坂 武野保後

おのころやま前佛にすてに 保後
今利

京 大井貞恕

秋好し中宮より 龍回坂 貞恕

大坂 淺沼宗貞

おのころやま前佛にすてに 保後
今利

侯前 小松原長時

夜もやほらうかき 秋

京栢谷一滴

月まはる月十九日家信法師一滴

長門 峴玉紀吉

花乃枝とよとを鳥井井深中し紀吉

伏見 栗田玄康

おとから天庭に入新月と云

大坂 平山方救

三十三

鏡もや曉あさつま去れ月 五段

大坂 山城大塚

芝居ちや花の糸よ、松をり 貞岡

播磨 垣内文三

いとけいへきまのりあまのりあま

大坂 和乳由貞

初鷹も丹白のまき 秋来由貞

江戸 蝶く子貞宣

若くはくくくくくくくくくく 蝶く子

大坂 恩田祝春

丹白のまき 秋来由貞

京 数下貞威

乃れは目乃玉もぬけぬ 貞威 柳式

大坂 山口清勝

花も如也今ア 山口清勝

京 萩野似船

九月十三夜

夕陽真の

先の月見 夕陽真の 似船

江戸駒井架

秋風やうへうへ破

加茂

大坂 平野治平

昔は北条の常中
今も南の浪平

京 住後秀

梅更 昔は北条の常中
今も南の浪平

江戸一狐の調和

三十六

増底や 以て 浪平
言不盡 調和

河内小山日暮重興

香もや 烟も 芳た 興

京 小村湖春

紫の 遠き 陽若く 秋の 園に 葉も 湖春

大坂 中林素之云

幄の火のほりか
ちが子花曇
素之

京 田中銀行軒

花の月くお
ぬもの花の
乳鏡

大坂 生白庵行風

多うおれ
書書
春や
宮
行風

堺 柏井一守

三十七

八月十四日
の
夜
月とん
草よく
あみち
ら月あ
と乃月

一守

賈谷半孤軒省我

科てきあ
お月う
なつし。一
三子

あつしと
お

京 六条道場禪雨

厄守
下
時
宗
な
る
名
を
は
る
寺
知
あ
の
居
海
保
了
の
居
な
る

堺 細谷柳菴

松よ有るはわたりたも
松

大坂 和氣遠舟

志はかたし
舟

京 寺田無錫

月よ有るはわたりたも
月

大坂 庁島松内亭

橋ちかしの志は
橋

京 川地赤謙

花よ有るはわたりたも
花

堺 長谷寺秀政

古酒よ有るはわたりたも
古酒

京 住高政

鶴鶴やけのり入梅のしづか

江戸梅原卜入

室蘭や秋の情の酒めいしよ 卜入

京 住自悦

下之今紅をけりたかき 自悦

大坂 女亀之

三十九

月く屋くわ しまよ
あきふた ありん山
い井々

京 住忠也

おきよるんしんしあしあま

肥前 石井如月

いしんねのまふさる
あひりあり 如月

京西六条常楽寺

八月

八月廿一日

書

播磨多田院別当

雨降れば岩を流す水は清く

月出

京古筆不佞

雨中とてうけにやういふ二日ふら

大坂牧野二得

四十一

日之耳 世にや 鬼

義濃 恩田懺玄

うるをやはらの糸緒乃草柳

大坂 梶山宗吾

世にや 鬼

伏見 小菴遠江殿

冬子今月産也
心のまます
了り 宗甫

二条前園白康道云

つぎ山
乃高橋 作りあり
庭もも 踏の
事候 友

大坂 西山宗固

いしんく
先月をう
ふ
こ
す
り
ぬ
一
巻





